

講義名	生活文化論			授業形態	
担当教員	辻本 乃理子	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

昔々の生活や環境は日々変化し、人々は社会状況に応じて暮らし方も変化させている。一方、「生活文化の継承・創造」が求められている。本講義では、地域の固有の文化やこれまでの人々の暮らしや生活の歴史、文化、伝統等を理解し、これらを継承しつつ、現在の暮らしや生活を豊かにする手段や方法に考察する。

到達目標

(1) 暮らしや生活の変遷や変化を理解することができる。
 (2) 先人が築いた生活や文化、伝統を知ることにより現在の暮らしや生活の成り立ちを理解することができる。
 (3) 生活の歴史や文化、伝統を理解した上で、それらを継承しつつ現代の環境に応じた生活や社会を創造することができる。

提出課題

講義中に課す小レポートおよび課題。提出方法は授業内での提出またはRYUKA Portalとしますが、講義中の教員の指示に従うこと。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題の記述内容の紹介や評価コメントについては、講義中に行う。

評価の基準

試験70%。
 講義中に課す小レポートおよび課題30%。
 課題点は内容の充実度、分量など総合的に判断し採点する。
 たたし、講義を妨害する行為がある場合は減点する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・受講の内容を基に試験、小レポートを課すため毎回出席すること。
- ・講義に前後のない私語は、講義に集中したい学生の迷惑になるため厳禁とする。
- ・授業計画は、進捗状況により多少前後、変更する場合がある。
- ・プリントの配布は、講義中のみ行う。欠席した学生には配布しないので注意すること。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

必要に応じてレジュメ、資料配付。参考文献については講義中に適宜紹介する。

授業計画

- 第1回：本講義の概要説明、オリエンテーション
- 第2回：生活文化と食 食生活の歴史
- 第3回：生活文化と食 和食について
- 第4回：生活文化と食 日本の年中行事と行事食
- 第5回：生活文化と食 郷土料理、世界の食文化
- 第6回：生活文化と被服 被服とは、衣文化について
- 第7回：生活文化と被服 日本の着物の歴史・着洋・大正時代まで
- 第8回：生活文化と被服 日本の着物の歴史・昭和のファッション
- 第9回：生活文化と住居 日本の住まい-起源-平安時代
- 第10回：生活文化と住居 日本の住まい-貴族と庶民の住宅の歴史
- 第11回：生活文化と住居 日本の住宅の発展・現代住宅への影響
- 第12回：生活文化と住居 日本の住宅の発展・明治時代-昭和
- 第13回：地域社会と伝統 文化 地域社会における生活文化、伝統の現状とこれから
- 第14回：生活文化の継承 生活文化の継承について考える
- 第15回：本講義のまとめ、講義の理解度の確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習については、新聞やメディアで取り上げた各地域の伝統や文化、暮らしについて関心をもち、情報を得ておくこと。また、現代社会を取り巻く生活や文化に関わる現象にも目を向けること。（30時間）
 復習については、各講義で行った内容を整理し理解に努めること。また、講義中に紹介した事例について自らも体験するように努めること。（30時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

(1) 地域社会におけるの生活や文化、伝統について理解し、現代社会における豊かな生活を創造することができる。
 (2) 人びとの生活や文化などについて知識を得て、社会における生活文化の継承と創造について考え、実践することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

テーマにより教室全体との対話形式の講義も行う方針であるため、予習を行い積極的に発言ができるようにしておくこと。

実務経験の有無及び活用

備考

--